

外為マンズリービューⅢ 南半球編

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2015/01/05

米ドルが焦点か

通貨ペア	基調		ページ数
豪ドル/円	↘	利下げ観測が強まるか、CPIに注目 予想レンジ: 94.700 ~ 99.900 円	2-3
NZドル/円	→	90円は攻防の分岐点 予想レンジ: 89.800 ~ 94.100 円	4-5
ランド/円	→	SARBは様子見の公算 予想レンジ: 9.600 ~ 10.800 円	6-7

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

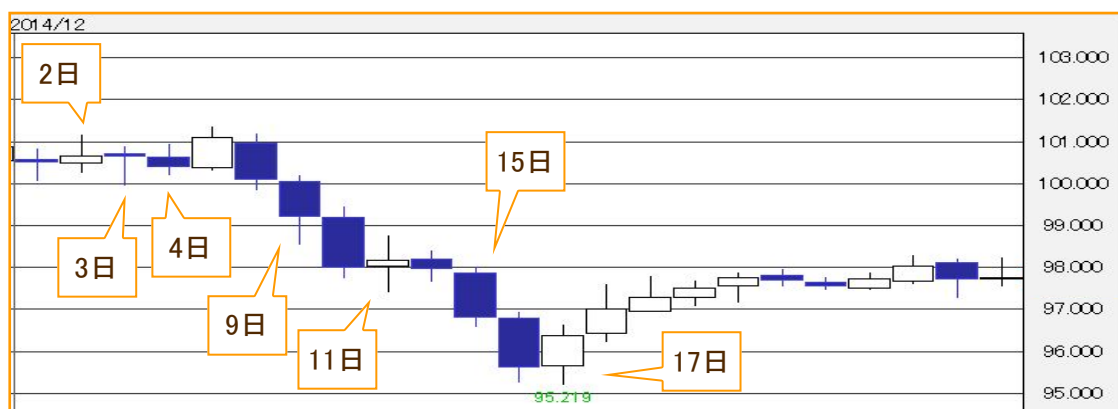
Copyright©2015 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

豪ドル/円 12月の推移

AUD/JPY

12月の豪ドル/円相場は95.219～101.362円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.1%の下落(豪ドル安・円高)となった。

原油相場の大幅下落が産油国を中心とした新興国経済に打撃になるとの見方から、市場がリスク回避ムードに傾き、豪ドル/円は下落。2015年中に豪準備銀行(RBA)が利下げを実施するとの観測を打ち出す金融機関が相次いだ事も重石となった。ただ、下旬に入るとクリスマスムードが漂う中で市場参加者が減少した為、豪ドル/円は97～98円でもみ合いとなった。



四本値

OPEN	100.589
HIGH	101.362
LOW	95.219
CLOSE	97.773

2日	RBAは理事会で政策金利の据え置き(2.50%)を決定。一部でRBAの利下げ観測がくすぶっていたが、声明文は前回とほぼ変わらない内容だった為、利下げ期待を高める内容にはならなかった。また、豪ドル相場の水準についても強く警戒する内容ではなかった事から、豪ドル買いが強まる場面が見られた。
3日	豪7-9月期国内総生産(GDP)は前期比が+0.3%、前年比が+2.7%と予想(+0.7%、+3.1%)を下回った。これを受けてRBAの利下げ観測が浮上し、豪ドル/円が売られる場面が見られた。
4日	豪10月小売売上高が前月比+0.4%と予想(+0.1%)を上回り、豪ドル/円は100.946円まで値を上げるも、豪ウエストパック銀のエコノミストが「豪準備銀行(RBA)が15年の2月と3月に0.25%ずつ利下げを行う」との見解を示すと、100.222円まで反落した。
9日	ギリシャのサマラス首相が新大統領選出のための投票を議会で15日以降に開始すると発表すると、同国の政局不透明感からギリシャ株が大幅に下落してリスク回避ムードとなった。原油相場の急落も重石となり、豪ドル/円は軟調に推移した。
11日	豪11月雇用統計は、失業率が6.3%と前回(6.2%)から0.1%悪化したが、これは事前予想通りであった。雇用者数変化が4.27万人増、労働参加率が64.7%といずれも予想(1.50万人増、64.6%)を上回った事が好感され、豪ドル/円は98.70円付近まで上昇した。その後、スティーブンスRBA総裁が「豪ドルは1豪ドル=0.75米ドルに近づくべき」と発言すると97.448円まで急落するも一時的。NYダウ平均の上昇を手掛かりに98.779円まで一段高となった。
15日	アラブ首長国連邦(UAE)のマズルーイ・エネルギー相が「原油価格の下落を見ても生産量を調整するつもりがない」との姿勢を示すと、原油価格が続落。これを嫌気してNYダウ平均が下げに転じ、円が全般的に買い戻されると、豪ドル/円は一時96.620円まで急落した。
17日	豪ドル/米ドル相場の下げに連れて、豪ドル/円は一時95.219円まで下落。しかしその後、米連邦公開市場委員会(FOMC)声明で利上げを急がない姿勢を示した事を好感してNYダウ平均が大幅に上昇すると、反発した。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

AUD/JPY

日経平均

OPEN	17475.10
HIGH	18030.83
LOW	16672.94
CLOSE	17450.77

NYダウ平均

OPEN	17827.27
HIGH	18103.45
LOW	17067.59
CLOSE	17823.07

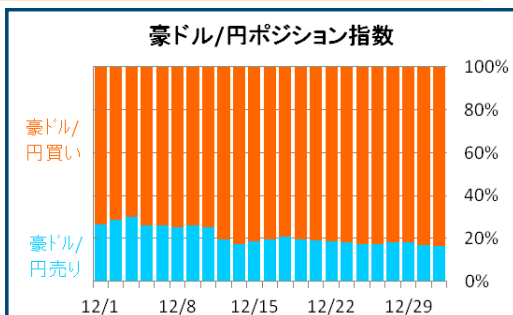
上海総合指数

OPEN	2691.725
HIGH	3239.356
LOW	2665.686
CLOSE	3234.677

豪10年債利回

OPEN	3.0130%
HIGH	3.1470%
LOW	2.7310%
CLOSE	2.7390%

12月のポジション動向



1月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・豪11月貿易収支(6日)
- ・豪11月小売売上高(9日)
- ・米12月雇用統計(9日)
- ・豪12月雇用統計(15日)
- ・日銀金融政策決定会合(20~21日)
- ・中国1月HSBC製造業PMI・速報(23日)
- ・欧州中銀金融政策発表(22日)
- ・ギリシャ総選挙(25日)
- ・豪10-12月期消費者物価(28日)
- ・米FOMC(27~28日)

1月の見通し

今月は昨年末に続き、米ドルの動向が最大の焦点となりそうだ。市場では米FRBが年央に利上げを開始すると見られているが、米12月雇用統計や米FOMCを受けて利上げ前倒し観測が浮上するようならば一段と米ドル買いが強まる公算が大きい。その場合、豪ドル/米ドルの下げ主導で豪ドル/円は連れ安となる可能性がある。なお、豪ドル/米ドルは0.80ドルの大台目前で踏み留まっているが、割ると先月11日にスティーブンスRBA総裁が示した「0.75ドル」に向けて下値を模索する事も考えらえる。

先月の豪ドル/円は、予想を下回るGDPをきっかけにRBAの利下げ観測が浮上した事が重石となった。1月は10-12月期の豪消費者物価に注目したい。前回10月に発表された7-9月期は基調インフレ率が前年比+2.3%と4-6月期(+3.0%)から伸びが鈍化しており、今回仮にRBAのインフレ目標下限(年+2%)に一段と接近する事になれば、2月RBA理事会での利下げを織り込む形で豪ドル売りが強まる可能性がある。結果に注目したい。

その他、欧州関連(ECB理事会、ギリシャ総選挙など)を始め、中国経済や原油相場に動きがあれば引き続き材料視されやすいと見る。(川畑)

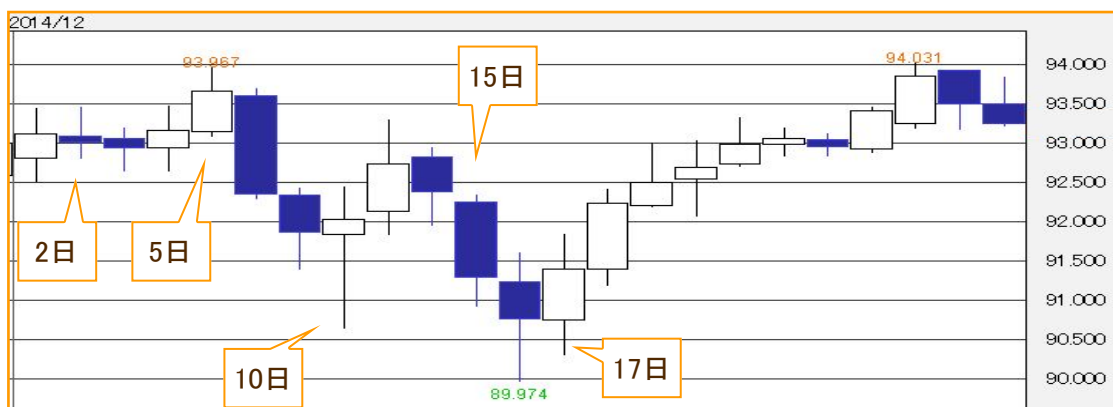
(予想レンジ: 94.700~99.900円)

NZドル/円 12月の推移

NZD/JPY

12月のNZドル/円相場は89.974~94.031円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約0.3%の小幅上昇(NZドル高・円安)となった。

原油相場の大幅下落が産油国を中心とした新興国経済に打撃になるとの見方から、市場がリスク回避ムードに傾いた事から、NZドル/円は一時90円を割り込んだ。ただ、下げ一巡後は買い戻しが優勢となり、11月終値付近まで値を戻した点が豪ドルや南アランドと異なる。NZ準備銀行(RBNZ)の利上げ期待を背景に、対豪ドルや対ユーロでNZドル買いが優勢となった事や、NZドル/米ドルが0.76ドル割れに失敗してやや買い戻された事がNZドル/円の反発を支えたと推測される。



四本値

OPEN	92.812
HIGH	94.031
LOW	89.974
CLOSE	93.257

2日	NZ乳業大手フォンテラが実施した乳製品入札において、GDT指数が前回比-1.1%(前回-3.1%)となった。これを嫌気して、NZドル/円は92.80円台まで下落した。
5日	予想より良好な結果となった米11月雇用統計を受けてNYダウ平均が上昇。これを受けて全般的に円安が進むと、NZドル/円は93.967円まで値を上げた。
10日	米株安を嫌気してNZドル/円は一時90.661円まで下落した。しかしその後、RBNZは政策金利の据え置き(3.50%)を決定。「NZドルの一段の大幅下落を予想」などNZドル高を牽制するも、10月に削除された「いくらか更なる利上げが後の段階で必要となる事が予想される」との表現が再び盛り込まれた事や「世界的に緩和的な金融政策の長期化が見込まれる中、インフレは低水準にある一方、経済は力強く拡大しており今後2年こうした拡大基調が続く」との見方を示した事から、直後の市場はNZドル買いで反応。NZドル/円は92.451円まで1円半を超える急騰となった。
15日	アラブ首長国連邦(UAE)のマズルーイ・エネルギー相が「原油価格の下落を見ても生産量を調整するつもりがない」との姿勢を示すと、原油価格が続落。これを嫌気してNYダウ平均が下げに転じ、円が全般的に買い戻されると、NZドル/円は一時90.933円まで急落した。
17日	米連邦公開市場委員会(FOMC)声明で利上げを急がない姿勢を示した事を好感してNYダウ平均が大幅に上昇した事を好感して、NZドル/円は上昇。NZ7-9月期国内総生産(GDP)が前期比+1.0%と予想(+0.7%)を上回った事から、NZドル/円は91.841円まで一段高となるも、前年比が3.2%と予想(+3.3%)を下回った為、買い一巡後は上げ幅をやや縮小した。

NZD/JPY

日経平均

OPEN	17475.10
HIGH	18030.83
LOW	16672.94
CLOSE	17450.77

NYダウ平均

OPEN	17827.27
HIGH	18103.45
LOW	17067.59
CLOSE	17823.07

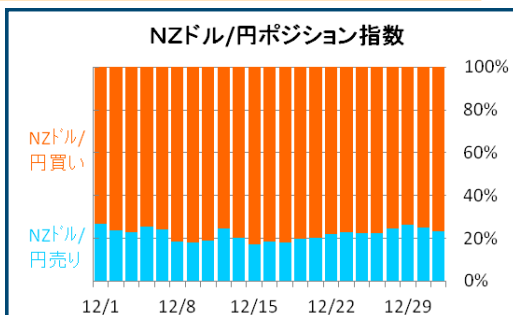
上海総合指数

OPEN	2691.725
HIGH	3239.356
LOW	2665.686
CLOSE	3234.677

NZ10年債利回

OPEN	3.8890%
HIGH	3.8990%
LOW	3.6630%
CLOSE	3.6660%

12月のポジション動向



1月の注目ポイント

- ・NZ乳業大手フォンテラ入札 (6日、20日)
- ・米12月雇用統計(9日)
- ・NZ10-12月期消費者物価(20日)
- ・日銀金融政策決定会合(20~21日)
- ・中国1月HSBC製造業PMI・速報 (23日)
- ・欧州中銀金融政策発表(22日)
- ・ギリシャ総選挙(25日)
- ・米FOMC(27~28日)
- ・RBNZオフィシャル・キャッシュレート(28日)
- ・主要国株価、原油相場

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

1月の見通し

1月は昨年末に続き、米ドルの動向が最大の焦点となりそうだ。市場では米FRBが年央に利上げを開始すると見られているが、米12月雇用統計や米FOMCを受けて利上げ前倒し観測が浮上するようならば一段と米ドル買いが強まる公算が大きい。その場合はNZドル/米ドルの下げ主導でNZドル/円は連れ安となる可能性がある。なお、NZドル/米ドルは0.76米ドルの節目がサポートとなっているが、このレベルを割ると0.73317米ドル(2009年3月安値0.48900米ドル~2011年8月高値0.88410米ドルの上げ幅38.2%押し)に向けた一段安もあるだろう。

NZ国内では、10-12月期消費者物価に注目したい。前回の7-9月期は前年比+1.0%とRBNZのインフレ目標下限(+1.0%)に迫った。NZ経済は高成長を続けているため、仮にインフレ目標下限を割り込んだとしてもRBNZが利下げに踏み切るかは不透明だが、少なくとも利上げの再開時期は後ずれするだろう。消費者物価が発表された後で迎えるRBNZオフィシャル・キャッシュレートと同時に発表される声明に、前回と比べ利上げ開始時期についての見通しに変更があるかがポイントとなろう。NZの景況感を知る上で、NZ大手フォンテラが実施する乳製品入札の結果や、NZと貿易的結びつきの強い中国経済の動向にも目を配りたい。

その他先月に続き、原油相場の動向や欧州情勢などに動きがあれば、材料視される事も考えられる。(川畑)

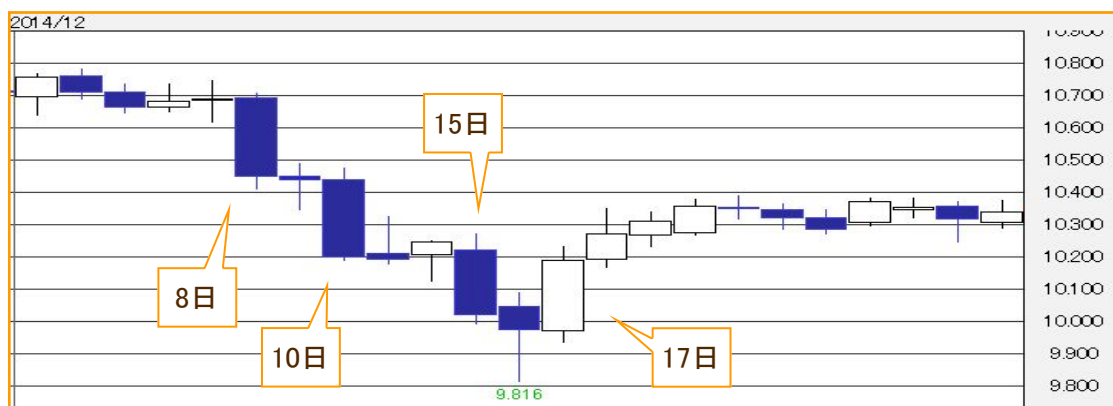
(予想レンジ: 89.800~94.100円)

ZAR/JPY

ランド/円 12月の推移

12月のランド/円相場は9.816～10.785円のレンジで推移。月間の終値ベースでは約3.5%の下落(ランド安・円高)となった。

原油相場の大幅下落が産油国を中心とした新興国経済に打撃になるとの見方から、市場がリスク回避ムードに傾き、ランド/円は急落。南アフリカは原油のほとんどを輸入に頼っており、経常赤字の同国にとって原油安はプラス要因であるが、グローバルなリスク回避の動きがそれに勝ったようだ。ただ、下旬に入るとクリスマスムードが漂う中で市場参加者が減少した為、10円台前半でもみ合いとなった。



四本値

OPEN	10.697
HIGH	10.785
LOW	9.816
CLOSE	10.339

8日	南ア第3四半期経常収支が2297億ランドの赤字(予想:2150億ランドの赤字)となった事や、ドル/円相場でドル売り・円買いが強まった影響を受け、ランド/円は10.413円まで下落した。
10日	米株安を嫌気して円買いが強まり、ランド/円は10.191円まで下落した。なお、南ア11月消費者物価指数が事前予想通り前年比+5.8%、南ア11月小売売上高は前月比+0.4%、前年比+3.4%(予想:+0.2%、+2.2%)となるも、いずれも反応は薄かった。
15日	アラブ首長国連邦(UAE)のマズルーイ・エネルギー相が「原油価格の下落を見ても生産量を調整するつもりがない」との姿勢を示すと、原油価格が続落。これを嫌気してNYダウ平均が下げに転じ、円が全般的に買い戻されると、ランド/円は一時9.992円まで下落した。
17日	米連邦公開市場委員会(FOMC)声明で利上げを急がない姿勢を示した事を好感してNYダウ平均が大幅に上昇した事から、ランド/円は大きく上昇した。

日 経 平 均

OPEN	17475.10
HIGH	18030.83
LOW	16672.94
CLOSE	17450.77

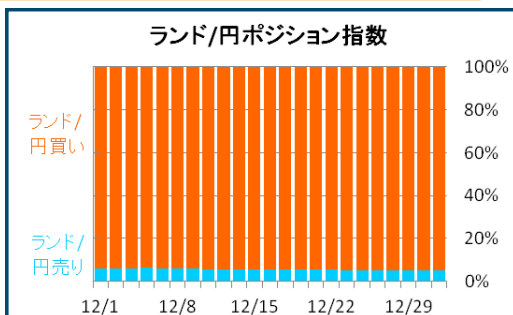
NYダウ平均

OPEN	17827.27
HIGH	18103.45
LOW	17067.59
CLOSE	17823.07

N Y 金

OPEN	1160.00
HIGH	1238.00
LOW	1141.70
CLOSE	1184.10

12月のポジション動向



1月の注目ポイント

[月間指標カレンダー\(外部リンク\)](#)

- ・米12月雇用統計(9日)
- ・日銀金融政策決定会合 (20~21日)
- ・南ア12月消費者物価指数(21日)
- ・中国1月HSBC製造業PMI・速報 (23日)
- ・欧州中銀金融政策発表(22日)
- ・ギリシャ総選挙(25日)
- ・米FOMC(27~28日)
- ・南アSARB金融政策発表(29日)
- ・南ア12月貿易収支(30日)
- ・主要国株価、原油相場

1月の見通し

1月は、米ドルの動向が最大の焦点となりそうだ。市場では米FRBが年央に利上げを開始すると見られているが、米12月雇用統計や米FOMCを受けて利上げ前倒し観測が浮上するようならば一段と米ドル買いが強まる公算が大きい。その場合はドル/ランドの上げ主導でランド/円は連れ安となる可能性がある。

なお、ドル/ランド相場は昨年12月15日に11.8150ランドまで上昇して2008年10月高値(11.8723ランド)に迫った。その後は概ね11.40~80ランドでもみ合いとなっており、レンジを上抜けると2002年3月以来となる12ランド台乗せを試す機運が高まりそうだ。

南ア国内では、金融政策の発表が予定されている。足元の同国景気が減速する中、インフレ率が3カ月連続でSARBの目標レンジ(+3~6%)内に収まっており、SARBが早期に利上げを行う可能性は後退している。市場では金利据え置き(5.75%)がコンセンサスとなっており、その際に発表される声明で利上げ開始時期についての見通しを示すなどのサプライズがない限り、無風通過となる可能性がある。(川畑)

(予想レンジ: 9.600~10.800円)